

Derwent WPI

(c) 2009 Thomson Reuters. All rights reserved.

0007480494 & & *Drawing available*

WPI Acc no: 1996-091720/199610

XRPX Acc No: N1996-076898

Air tight make up container - has lead hole formed in cover plate leading to lead gap

Patent Assignee: SHISEIDO CO LTD (SHIS); YOSHIDA KOGYO KK (YOSI)

Inventor: CHIKU M; YUZUHARA Y

Patent Family (2 patents, 1 & countries)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 8000346	A	19960109	JP 1994137228	A	19940620	199610	B
JP 3405368	B2	20030512	JP 1994137228	A	19940620	200333	E

Priority Applications (no., kind, date): JP 1994137228 A 19940620

Patent Details

Patent Number	Kind	Lan	Pgs	Draw	Filing Notes	
JP 8000346	A	JA	6	8		
JP 3405368	B2	JA	6		Previously issued patent	JP 08000346

Alerting Abstract JP A

The air tight make up container consists of a container body (10) with a packing member (13) attached to the inner surface of the container body. A cover (20) hinged to the container body as a lead gap (25) formed inbetween a cover plate (23) and an elasticity packing material (30). A lead hole (26) is formed in the cover plate leading to the lead gap.

ADVANTAGE - Enables easy opening/closing of container. Reduces change in internal pressure by covering with packing material of elastic nature.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: AIR; TIGHT; UP; CONTAINER; LEAD; HOLE; FORMING; COVER; PLATE; LOAD; GAP

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-346

(43) 公開日 平成8年(1996)1月9日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 5 D 33/00

識別記号

P

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平6-137228

(22) 出願日 平成6年(1994)6月20日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(71) 出願人 000160223

吉田工業株式会社

東京都墨田区立花5丁目29番10号

(72) 発明者 知久 真巳

神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会

社資生堂第1リサーチセンター内

(72) 発明者 柚原 幸知

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工

業株式会社内

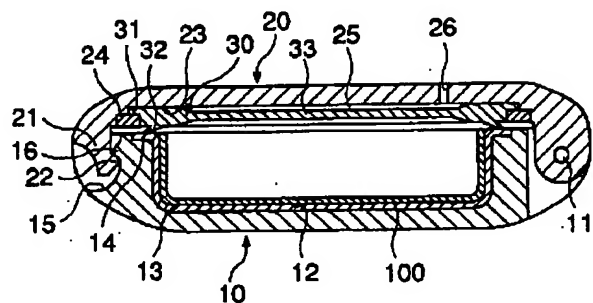
(74) 代理人 弁理士 一色 健輔 (外2名)

(54) 【発明の名称】 気密化粧料容器

(57) 【要約】

【目的】 弾性パッキン材で覆われる内部の圧力変化を少なくして、蓋体の開閉を容易にした気密化粧料容器を提供する。

【構成】 蓋体20の裏面に、両者間に空隙25を形成すべく並設され、蓋体20の閉止状態で中皿100を覆って容器本体10側に圧接する可撓性の弾性パッキン材30と、蓋体20に設けられ空隙25と外部とを連通する連通孔26とで構成する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 容器本体と蓋体とをそれぞれの後端縁部で開閉自在に連結し、該容器本体内に化粧料を収納する中皿を装着してなる気密化粧料容器において、該蓋体の裏面に、両者間に空隙を形成すべく並設され、該蓋体の閉止状態で該中皿を覆って該容器本体側に圧接する可撓性の弾性パッキン材と、該蓋体に設けられ、該空隙と外部とを連通する連通孔とを備えたことを特徴とする気密化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、気密化粧料容器に関するもので、より具体的には容器本体と蓋体とをそれぞれの後端縁部で開閉自在に連結し、該容器本体内に化粧料を収納する中皿を装着してなる気密化粧料容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種の気密化粧料容器においては、実公平 6-2585 号公報に示されるような気密コンパクト容器が公知となっている。この気密コンパクト容器では、化粧料を収納する中皿を容器本体内に設け、蓋体の内面に弾性パッキン材を配設している。また、この弾性パッキン材の容器本体の凹所の周囲に対応する部分の下面には環状のシール用突起が設けられ、この環状のシール用突起と並列してヒンジ溝が環状に切欠されている。そして、蓋体を閉じると、シール用突起が容器本体の中皿の上面に押圧され、ヒンジ溝が弾発力を発生するように収縮されることにより、弾性パッキン材内部の空間を負圧にし、中皿内の化粧料を気密保持するようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、かかる従来の気密コンパクト容器においては、容器本体と蓋体とがフック係合する際に化粧料を収納した中皿の上方の空間から外部へ空気が逃げ、これにより弾性パッキン材で覆われた中皿の上方の空間は負圧となる。したがって蓋体には、弾性パッキン材による吸盤のような吸着効果が作用して、蓋体を開放する際に開けにくくなるといった問題が生じる。

【0004】 また、中皿の内部が高気密になるように弾性パッキン材を設定すると、蓋体を閉止する際に、弾性パッキン材の内部に閉じこめられた空気圧によって蓋体が反発し、フックをかけにくいといった問題が生じる。

【0005】 本発明に係る従来の問題に鑑みてなされたもので、その目的は、弾性パッキン材で覆われる内部の圧力変化を少なくして、蓋体の開閉を容易にした気密化粧料容器を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 かかる目的を達成するために本発明に係る気密化粧料容器では、容器本体と蓋体

2

とをそれぞれの後端縁部で開閉自在に連結し、該容器本体内に化粧料を収納する中皿を装着してなる気密化粧料容器において、該蓋体の裏面に、両者間に空隙を形成すべく並設され、該蓋体の閉止状態で該中皿を覆って該容器本体側に圧接する可撓性の弾性パッキン材と、該蓋体に設けられ、該空隙と外部とを連通する連通孔とを備えたことを特徴とする。

【0007】

【作用】 上記構成を有する本発明の気密化粧料容器によれば、蓋体を閉止する時は、容器本体と弾性パッキン材との間で中皿上方に閉じ込められる空気の圧力が高くなり、その圧力により可撓性の弾性パッキン材は上方へ膨らむ。この際、蓋体の裏面と弾性パッキン材との間に形成された空隙内の空気は、連通孔より外部へ逃げる。

【0008】 また、蓋体を開放する時は、弾性パッキン材に覆われた中皿上方は負圧となり弾性パッキン材が下方へ凹むように変形する。この際、蓋体の裏面と弾性パッキン材との間の空隙内に連通孔から空気が流入する。

【0009】

【実施例】 以下、本発明の好適な実施例を図に基づいて詳細に説明する。図 1 および図 2 は、本発明の第 1 実施例に係る気密化粧料容器を示す。本発明の気密化粧料容器は、容器本体 10 および蓋体 20 より構成されている。

【0010】 容器本体 10 は、蓋体 20 とそれぞれの後端部でピン 11 によって開閉自在に枢着されている。また、容器本体 10 の上面には凹所 12 が設けられ、凹所 12 の内周面全域には、パッキン部材 13 が固定されている。このパッキン部材 13 の上端部は外方に突出したフランジ部 14 になっており、このフランジ部 14 と容器本体 10 の上面とは面一になっている。また、パッキン部材 13 内には化粧料を収納する中皿 100 が装着される。

【0011】 また、容器本体 10 の前端縁部には切欠凹所 15 が形成され、その奥面上部には第 1 の係合突起 16 が形成されている。この切欠凹所 15 に対応して、蓋体 20 の前端縁部中央からは爪片 21 が垂設されるとともに、この爪片 21 の後面端部には第 2 の係合突起 22 が形成されている。そして、蓋体 20 を閉じると、爪片 21 が切欠凹所 15 に入り、第 1 の係合突起 16 と第 2 の係合突起 22 とが係合し、蓋体 20 は止錠状態を占める。

【0012】 蓋体 20 は、容器本体 10 の上面を覆うように形成されており、その内面には凹部 23 が形成され、ここに弾性パッキン材 30 が組み込まれている。弾性パッキン材 30 は、容器本体 10 のパッキン部材 13 のフランジ部 14 を覆うのに十分な大きさを有し、その外周は、肉薄なフランジ部 31 となっている。このフランジ部 31 は、蓋体 20 の内面とこれに接着されている環状のプレート 24 に挟まれ、これによって弾性パッキン

3

ン材30は蓋体20に固定されている。また、弾性パッキン材30の下面外周には、斜め外側に傾斜した弾性脚32が形成されている。さらに、弾性パッキン材30の中央部33は外周部に比べて肉薄に形成され、可撓性を有し、蓋体20の凹部23の内面と弾性パッキン材30の中央部33との間には空隙25が形成されている。さらにまた、蓋体20には、連通孔26が貫通し、空隙25と外部とが連通している。

【0013】上記のような構成の気密化粧料容器の蓋体20を閉じると、容器本体10のパッキン部材13のフランジ部14に弾性パッキン材30の弾性脚32が圧接し、第1の係合突起16と第2の係合突起22とが係合する。このようにして蓋体20を閉止すると、図1に示されるように、パッキン部材13と弾性パッキン材30の間に閉じ込められた空気が圧縮され、その圧力により弾性パッキン材30の中央部33は上方へ膨らむ。この際、蓋体20の凹部23の内面と弾性パッキン材30の中央部33との間に形成された空隙25内の空気は、連通孔26より外部へ逃げるので、内部の空気圧によって蓋体20が反発し、フックをかけにくいといった問題が解消される。

【0014】また、図1の状態から蓋体20を開ける時、パッキン部材13と弾性パッキン材30の間のシール性能が高いためその内部の空気圧が負圧となり、弾性パッキン材30の中央部33は下方へ凹む。その際、空隙25内に連通孔26から空気が流入し、パッキン部材13と弾性パッキン材30の間の空間の負圧化が緩和されることになるので蓋体20を開放しやすくなる。

【0015】図3は、本発明の第2実施例を示す。本実施例では、蓋体20aの内面の凹部23aの内周面で、弾性パッキン材30のフランジ部31の固定部分に連通孔26aが形成されている。この連通孔26aは、弾性パッキン材30の中央部33の上方の空隙25に開口し、他端を弾性パッキン材30の外周と容器本体10上面との間に形成された空隙27に開口して貫通し、これにより空気が外気と連通し、パッキン部材13と弾性パッキン材30の間の空気の圧力を調節することができる。

【0016】また、この連通孔26aにより、蓋体20aの上面に穴を形成しなくてもよいので、外観上からも好ましい。その他の構成並びに作用は上記第1実施例の場合と同様である。

【0017】図4は、上記実施例の弾性パッキン材によるシール部分の変形例を示す。容器本体10aの上面には凹所12aが設けられ、ここに化粧料を収納する中皿100が嵌着されている。パッキン部材40の開口部41の内周壁には、段部42が形成され、外周はフランジ部43になっており、このフランジ部43と容器本体10aの上面とは面一になっている。また、弾性パッキン材30aの外周側下面には、容器本体10aのパッキン

4

部材40の開口部41に対応して環状突片35が一体的に突出形成され、パッキン部材40の開口部41に嵌入することにより中皿100の気密を保持するようになっている。さらに、環状突片35の先端の外周側には傾斜面36が形成されている。さらにまた、環状突片35の外周側の下面にはパッキン部材40のフランジ部43に対応してシール用突起37が環状に設けられている。弾性パッキン材30aの外周はL字状のフランジ部31aとなっており、環状プレート24aにより蓋体20aに固定されている。その他の構成並びに作用は上記第1実施例の場合と同様である。

【0018】図5に示される第3実施例では、容器本体10bの上面には凹所12bが設けられ、ここに化粧料を収納する中皿44が嵌着されている。また、弾性パッキン材30bの外周側下面は、アーチ状の切欠部38が形成されている。この切欠部38の上面は、弾性パッキン材30bの上面から突出して形成され、ヒンジ部39となっている。さらに、切欠部38の内方内面には鏡50が取り付けられている。さらにまた、切欠部38の外周側の下面には容器本体10bの上面に対応して二重のシール用突起37b、37bが環状に設けられている。そして本実施例では、蓋体20bの開閉により切欠部38のヒンジ部39が変形することにより、弾性パッキン材30bによる内部の圧力調整を行う。その他の構成並びに作用は上記第1実施例の場合と同様である。

【0019】図6は、本発明の第4実施例に係る気密化粧料容器を示す。本実施例の気密化粧料容器は、容器本体10cと蓋体60との間に中蓋51が設けられ、中蓋51も、容器本体10cと蓋体60それぞれの後端部でピン11によって開閉自在に枢着され、本実施例ではこの中蓋51が中皿100を閉止する蓋体となっている。中蓋51は、容器本体10cの上面を覆い中皿100を閉止するように形成されており、その内面には凹部52が形成され、間に空隙53を介して弾性パッキン材54が組み込まれている。また、凹部52の中央部には上下方向に貫通する連通孔55が形成されている。弾性パッキン材54は、容器本体10cのパッキン部材13cのフランジ部14cを覆うのに十分な大きさを有し、その下面外周には、斜め外側に傾斜した弾性脚56が形成されている。さらに、弾性脚56の内方上面には、断面略U字状の切欠溝57が形成されている。この切欠溝57の下面は、弾性パッキン材54の下面から突出して形成され、ヒンジ部58となっている。さらにまた、弾性脚56の内方下面には、鏡59が取り付けられている。

【0020】蓋体60は、容器本体10cの上面を覆うように形成されており、その内面には凹部61が形成され、ここにパフ62を収納するようになっている。

【0021】上記のような構成の気密化粧料容器の蓋体60を閉じると、パフ62は中蓋51の上面に載置された状態で凹部61内に収納され、中蓋51の外周上面が

5

蓋体60の内周壁の段部99に押されて容器本体10cの弾性パッキン材13cのフランジ部14cの上面に中蓋51の弾性パッキン材54の弾性脚56が圧接し、中皿100を気密保持状態に閉止する。本実施例では、パフ62が収納されている凹部61は気密性は高くなく、外気と連通しているため、中蓋51の空隙53は連通孔55を介して外気と連通している。したがって、弾性パッキン材54は第2実施例と同様に内部の圧力調整を行う。その他の構成並びに作用は上記第1実施例および第2実施例の場合と同様である。

【0022】図7および図8は、本発明の第5実施例に係る気密化粧料容器を示す。本実施例の気密化粧料容器の容器本体70は、横長の平面略長方形をなし、後端中央部には凹所71が形成され、内面に鏡91が取り付けられた蓋体90とそれぞれの後端部でピン72によって開閉自在に枢着されている。また、容器本体70の上面の一方の側には凹所73が設けられ、凹所73内には内面に化粧料を収納する中皿100が装着されるパッキン部材74が配設されている。さらに、容器本体70の上面の他方の側には、パフ等の化粧具を収納する凹所75が設けられている。

【0023】パッキン部材74の上端部は外方に突出したフランジ部76になっている。そして、パッキン部材74が容器本体70内に固定された状態では容器本体70の上面とパッキン部材74のフランジ部76とは面一になっている。また、容器本体70の側部上面には一対の蝶番片77、77が形成されている。

【0024】さらに、凹所73上方の容器本体70と蓋体90との間には、中蓋78が容器本体70の蝶番片77に対しピン79によって開閉自在に蝶着されている。この中蓋78は、容器本体70に対して若干上下方向に遊動自在に蝶番片77に蝶着され、本実施例ではこの中蓋78が中皿100を閉止する蓋体となっている。中蓋78は、化粧料を収納する中皿100が装着される凹部73の上面を覆うように形成されており、その内面には凹部80が形成され、ここに弾性パッキン材81が組み込まれている。弾性パッキン材81は、パッキン部材74のフランジ部76を覆うのに十分な大きさを有し、その下面外周には、斜め外側に傾斜した弾性脚82が形成されている。また、弾性パッキン材81の中央部は外周部に比べて肉薄に形成され、可撓性を有する。中蓋78の蝶番部とは反対側の端部83には指掛け部84が突出形成されている。さらに、中蓋78の上面中央部には、突部85が突出形成されている。さらにまた、中蓋78の中央部には上下方向に貫通する連通孔86が形成されている。

【0025】また、容器本体70の前端縁部には切欠凹所87が形成され、その奥面上部には第1の係合突起88が形成されている。この切欠凹所87に対応して、蓋体90の前端縁部中央からは爪片（図示せず）が垂設さ

6

れ、その後端端部には第2の係合突起（図示せず）が形成され、蓋体90を閉じると、第1の係合突起88と第2の係合突起とが係合し、蓋体90は止錠状態を占める。また、切欠凹所87には、開錠のためのプッシュピース89が配設されている。

【0026】上記のような構成の気密化粧料容器の蓋体90を閉じると、蓋体90の内面が中蓋78の突部85を押圧し、中蓋78は下方へ移動し、中皿100を閉止してパッキン部材74のフランジ部76の上面に中蓋78の弾性パッキン材81の弾性脚82が圧接し、第4実施例の場合と同様の作用効果を生じる。

【0027】

【発明の効果】以上のように本発明に係る気密化粧料容器では、容器本体と蓋体とをそれぞれの後端縁部で開閉自在に連結し、容器本体内に化粧料を収納する中皿を装着してなる気密化粧料容器において、蓋体の裏面に、両者間に空隙を形成すべく並設され、蓋体の閉止状態で中皿を覆って容器本体側に圧接する可撓性の弾性パッキン材と、蓋体に設けられ、空隙と外部とを連通する連通孔とを備えたことを特徴としているので、容器本体と蓋体とがフック係合する際には、弾性パッキン材で覆われた中皿上方の空気圧が高まろうとするが、弾性パッキン材が変形し、弾性パッキン材と蓋体との間の空隙から空気が連通孔を通して外へ逃げるので、蓋体を閉止する際に内部の空気圧によって蓋体が反発してしまっ、フックをかけにくいといった問題が解消される。

【0028】また、蓋体を開放する際には、弾性パッキン材で覆われた中皿上方が負圧になることを、連通孔を通して蓋体と弾性パッキン材との間の空隙に流入する空気により防止でき、蓋体を開けやすくなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例に係る気密化粧料容器の蓋体の閉止状態の断面図である。

【図2】本発明の第1実施例に係る気密化粧料容器の蓋体を開放した状態の断面図である。

【図3】本発明の第2実施例に係る気密化粧料容器の要部断面図である。

【図4】本発明のシール部分の変形例に係る気密化粧料容器の要部断面図である。

【図5】本発明の第3実施例に係る気密化粧料容器の要部断面図である。

【図6】本発明の第4実施例に係る気密化粧料容器の断面図である。

【図7】本発明の第5実施例に係る気密化粧料容器の断面図である。

【図8】本発明の第5実施例に係る気密化粧料容器の蓋体が開放した状態の要部上面図である。

【符号の説明】

10, 10a, 10b, 10c, 70 容器本体
13, 13c, 40, 74 パッキン部材

(5)

特開平 8-346

7

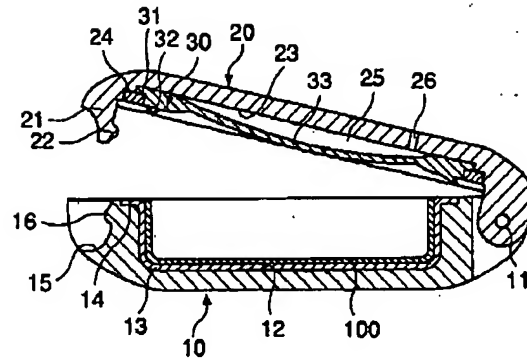
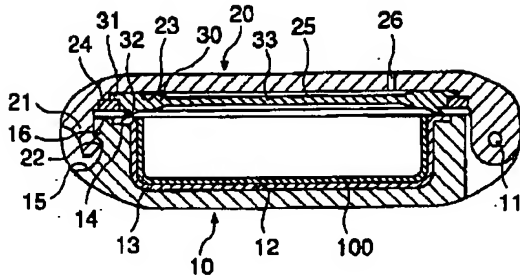
8

44, 100 中皿
 20, 20a, 20c, 60, 90 蓋体
 26, 26a, 55, 86 連通孔

30, 30a, 30b, 54, 81 弾性パッキン材
 33 肉薄部

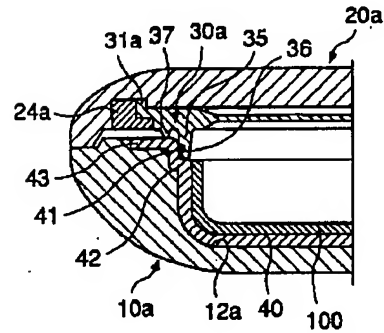
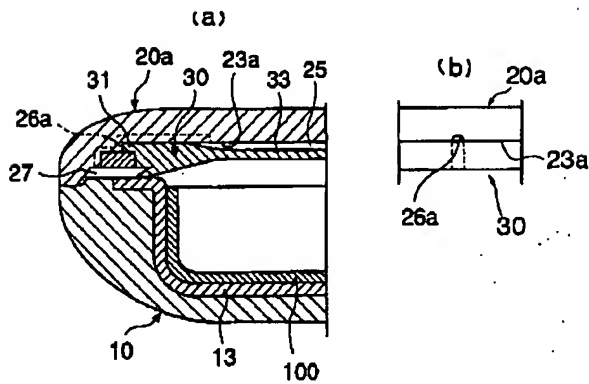
【図1】

【図2】



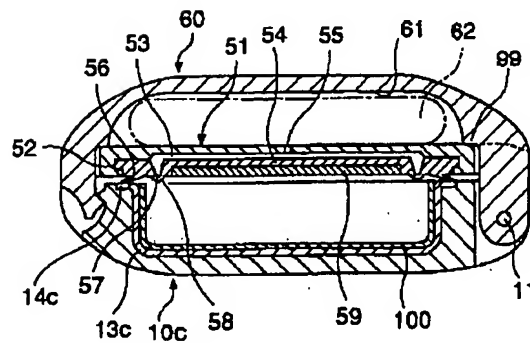
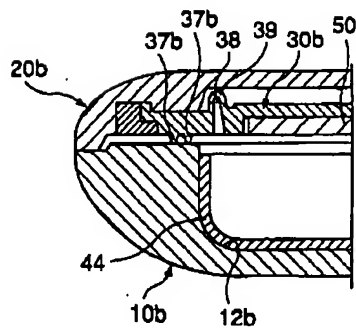
【図3】

【図4】

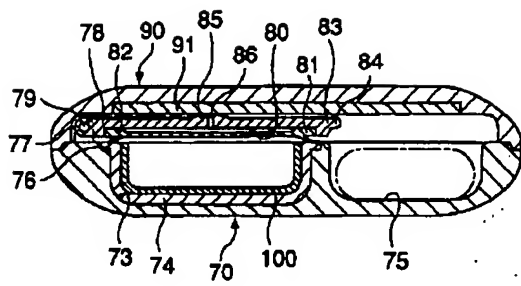


【図5】

【図6】



【図7】



【図8】

